浄土宗　徳本山植諸院（とくほんざん　じきしょいん）

太巌寺（たいがんじ）

（通称　藤の寺）

※藤まつり期間中の駐車は、第二・第三駐車場をご利用ください

宗教法人　太巌寺（通称・藤の寺）

〒519-0162 三重県亀山市住山町 273

TEL/FAX 0595-82-0824

太　巌　寺　検索

寺紋「立葵」　宗紋「月影杏葉」

太巖寺縁起

太巖寺は奈良時代、行基菩薩によって開創され、往古は寺領が三百七十余石で、六十有余坊を持つ大寺院でした。

江戸時代初期、浄土宗 総本山知恩院 第三十二世 雄誉霊巖上人の弟子、徳蓮社本誉太巖上人により浄土宗と改められこの地に再興開山されました。

現在の本堂は、嘉永四年（一八五一年）太巖寺第二十一世重蓮社恩誉懐冏上人によって再建されています。再建当時、すでに境内には藤の大木があり、俗に「藤の寺」と言われていたと記録されています。（佛教大学佛教文化研究所編『新浄土宗辞典』）

また明治初期には、相撲力士明星岳が「藤の木の如く粘り強く逞しく、長く立派な花を咲かせるような関取になれるように」と、藤の苗木を植え、仏前にて祈願したと伝えられ、当時の境内には藤棚が四本あり、そのうち一本は白藤だったとも伝えられています。

昭和に入り、戦争激化のため、物見遊山が禁止された際、太巖寺の四本の藤の木も一本だけを残し、全て切り落とすこととなりました。残された一本の藤の木も二間四方（畳八帖）から畳二帖分に縮小されるという悲しい歴史を持つ藤棚です。

平成の時代から、寺世話の方々を始めとして、檀家の皆様の長年のご尽力により、現在の藤棚は昔の藤棚の大きさまで再建されております。

『月に遠くおぼゆる藤の色香哉』

（与謝蕪村）